

2018年度

T 世界史問題

注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はI・IIとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I。次の文を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

古代から地中海は、さまざまな人と物資が行き交う主要な交通路であった。その理由のひとつは、三方をそれぞれ気候や資源の異なるヨーロッパ、アフリカ、アジアに囲まれているという地理的環境にある。エジプトなど一部を除き、概して石灰岩質の土地で覆われた東地中海地域は、大河川や平野にも乏しく、大規模な穀物生産に適していない。そのため住民は穀物の獲得に多大な関心を向けねばならず、これが地中海で海上交易を発達させる直接的要因となった。

この地域では早くから様々な文明が花開き、興亡を繰り返していった。紀元前2千年ごろから、エーゲ海の島々を中心に青銅器文明が展開し、その中心となった（イ）島のクノッスでは、多数の部屋空間をもつ巨大な宮殿が出現し、海上交易で繁栄した。この¹⁾文明はやがて、ギリシア本土で興った（ロ）文明の担い手たちによって滅ぼされた。

北アフリカのナイル川流域に発展したエジプト文明では、毎年定期的に氾濫するナイル川が上流の²⁾エチオピア高原の森林地帯から肥沃な土壌を氾濫原にもたらすことから、周囲の乾燥した砂漠地帯とは対照的に大規模な穀物栽培が可能であった。これが、古代ギリシアの歴史家³⁾ヘロドトスをして「エジプトはナイルの賜物」と言わしめたゆえんである。エジプトでは当初、南北に長く伸びるナイル川に沿って小国家が分立したが、やがてそれらを束ねる権力が出現し、ナイル川下流域の（ハ）を都として、エジプト統一を達成した。

エジプトではおよそ30の王朝が交代したが、それらは大きく古王国・中王国・新王国に区分される。中王国時代になると、都はナイル川中流域の⁴⁾テーベにうつされた。中王国時代末期には（ニ）と総称されるシリア・パレスティナ地域からの集団がナイル・デルタに侵入しエジプトを支配するにいたった。

しかし、エジプト人はやがて（ニ）をナイル・デルタから追放することに成功し、新王国を建設した。エジプトでは古来、多神を崇拜していたが、前14世紀に王位に就いた⁵⁾アメンホテプ4世は、太陽神（ホ）のみを神とする唯一神教を創始した。

前12世紀になると、東地中海一帯で大きな変動が生じた。それまで繁栄を誇っていたシリア・パレスティナ地域の諸都市国家の一部は、この時期破壊されたり放棄されたりしている。こうした破壊との直接的関連は不明だが、「海の民」と呼ばれる人々が進出して拠点を築くなど、多くの民族が東地中海地域に新たに登場するようになった。

この時期以降、地中海貿易を独占したのは、やがて地中海各地にカルタゴなどの植民都市を築いた⁶⁾フェニキア人と呼ばれた人々である。彼らは様々な資源を地中海の各地から獲

得し、それを加工してメソポタミア地方などに製品として輸出した。また、エジプトなどでもフェニキアから⁷⁾木材を盛んに輸入し、大規模な建設の資材として用いた。

ギリシア人は、前12世紀の混乱の時代以降、鉄器を利用して次第に農業生産力を高め、(ヘ)と呼ばれる都市国家に集まって住むようになった。しかし、大規模農業に不向きな土地では耕作可能な部分は限られ、増加する人口を支えきれないため、前8世紀半ばからは黒海沿岸や地中海沿岸の各地に植民市を建設した。地中海の海上交易にも携わるようになったギリシア人は、ギリシアで伝わってきた⁸⁾叙事詩を書き記すのに、フェニキア人から学んだ⁹⁾文字を用いた。ギリシアは次第に勢力を強め、前5世紀には東方の大国アケメネス朝¹⁰⁾ペルシアと戦ってこれを撃退することに成功した。

前12世紀以降、パレスティナに成立した小国のうち、イスラエル王国と(ト)王国はともにヤハウエを国家神として崇拝していた。両国が減ぼされると、捕囚となった人々の間でその出来事をヤハウエからの罰と考える思想が生まれた。これが後にユダヤ教の聖典となる『旧約聖書』を形成するひとつの思想となった。

ペロポネソス半島の北方では、ギリシア人が(チ)王国を興し、前4世紀後半になるとギリシア全域を支配するようになった。この王国の王位に就いたアレクサンドロス大王は、前334年、東方への遠征を開始し、わずか10年ほどでアケメネス朝ペルシア¹²⁾を滅ぼし、インド西北部からエジプトにまでいたる広大な地域を支配下に置いた。アレクサンドロス大王の死後、(リ)と呼ばれる彼の部下がこの領土を分割して治めた。アレクサンドロス大王の東方遠征から、彼の部下が建設した国々がすべて滅ぶまでのおよそ300年間¹³⁾をヘレニズム時代と呼ぶ。

¹⁴⁾やがてこれら諸国は力を失い、代わってイタリヤ半島¹⁵⁾を拠点とし、地中海世界のほぼ全域を支配下に収めたのは、前146年にカルタゴ¹⁶⁾を破って西地中海の覇権を握ったローマであった。

A. 文中の空所(イ)～(リ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線部1)～16)にそれぞれ対応する次の問1～16に答えよ。

1. この宮殿を発掘し、線文字の刻まれた粘土板を発見したイギリス人考古学者の名をしるせ。

11. この書物は、その後中東で成立し、共通する始祖の名前をとって「アブラハムの宗教」と呼ばれるいずれの一神教にとっても聖典の役割を果たした。7世紀にあらたに成立した「アブラハムの宗教」であるイスラーム教の展開についての説明として正しいものを、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 北アフリカのムラービト朝は、ソンガイ王国を滅ぼした
 - b. 北インドで成立したガズナ朝は、タイに東進し仏教寺院を破壊した
 - c. 中国南部の港市に拡大したムスリムは、清真寺と通称されるモスクを建てた
 - d. 東アフリカに拡大したムスリムは、現地文化を排除してスワヒリ文化を生み出した
12. この国の最後の王で、アレクサンドロス大王と交えたイッソスの戦いで敗れた人物の名をしるせ。
13. これらの国々のうち、前30年にローマが滅ぼした国がある。この国の最後の女王と結んでオクタウィアヌスと対立し、アクティウムの海戦で敗れて自殺したローマの政治家・軍人は誰か。その名をしるせ。
14. この時代に活躍した哲学者で、アレクサンドロス大王の教育係を務め、その思想が後にイスラーム哲学や中世ヨーロッパの哲学・神学にまで多大な影響を及ぼした人物の著作として正しいものを、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 『アエネイス』
 - b. 『形而上学』
 - c. 『自省録』
 - d. 『対比列伝』
15. この半島でおこった古典文化の復興運動であるルネサンスは、その後ヨーロッパ各地に拡大した。そのルネサンスで活躍した著者と作品の組み合わせとして正しいものを、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. エラスムス『愚神礼賛』
 - b. シェークスピア『ユートピア』
 - c. セルバンテス『デカメロン』
 - d. ラブレール『エッセー』
16. この国が最大の版図を築いた時の皇帝は誰か。次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. アントニヌス＝ピウス
 - b. トラヤヌス
 - c. ハドリアヌス
 - d. マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス

II。次の文を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

性差に注意を払うことで、歴史をどう描き直せるだろうか。

性は変化しない与件であり、歴史の埒外^{らちがい}にあるように思うかもしれない。ところが、性に触れるつもりのない叙述が、外で働く男と、内で家を守る女といった性別役割観を無自覚にはらむ場合がある。男性たちの狩猟文化を中心に先史時代を描くなら、女性たちが中心的だったと推定される採集文化の重要性を見損ねて¹⁾しまう。変化の担い手を男性に求めて、新石器時代における農耕の確立に貢献したであろう女性たちの知識や技術を軽視して²⁾しまう。性差への無頓着が、事実を覆い隠すばかりか、ひそかに前提になっている性別役割観を増幅さ³⁾えしかねない。

実のところ、男女の役割や関係は変化してきた。

なるほど、女性たちが社会において従属的で、家庭の中で生きた時代や地域は少なくない。古代アテネの陶器に描かれた婚礼行列図は、女性が実家から夫という家長のいる婚家へと譲渡されたことを今に伝える。宋代に成立した朱子学は、東アジア世界に男尊女卑の規範を広める契機となった。中世ヨーロッパ社会でも、次第に庶民層へも浸透していくキリスト教の影響下で、しばしば⁶⁾セクシュアリティが抑圧され、女性嫌悪が表明された。男女の別を基礎とし、女性を劣位に置く発想はいつも変わらないか⁸⁾のようである。

しかし、そもそも男女を対とみなすことすら普遍的とは言えない。17世紀ごろまでのヨーロッパにおける解剖図や骨格図は、男女を基本的に同じものとしてあ⁹⁾つかった。「女は不完全な男」とされつつも、両者は連続的な存在とみなされたのである。

男女の根本的な性差が強調されたのは、18世紀以降のことであった。啓蒙の世紀と呼ばれる当時のヨーロッパでこうした性差観念が登場したのには理由があると、歴史家たちは考えている。王や貴族に代わって政治を担うのは誰かという問いは、すべての人に市民権を与えるべきであるという解答を導きはしなかった。ラ=ファイエットらによって起草され1789年に採択された（イ）を得てもなお、男女は平等にはあ¹⁰⁾つかわれなかった。政治的な責任を果たしうるのは、合理性や知性を疑われる女性や下層民とは対照的な、中産階級男性だと論じられた。性差が政治的権利の所在を左右する理由に用いられたと言えよう。

こうしてみるなら、性差観念が対外関係をも規定する場面があることにも気がつく。複数社会間の関係のあり方を性別イメージでとらえることで、その関係がなにか自然で当然のものとして受け止められるのだ。アメリカという地名の由来になった地理学者ヴェスプッチを描いた図像はその一例と言える。オセアニアのイギリス植民地化に¹²⁾貢献し、1779年¹³⁾

に自ら「発見」したハワイ島で島民との紛争によって殺された探検隊長（ロ）は、太平洋の島々で出会う人びとの性に関する慣習を彼らの未開性の証と考えた。インドを植民地化したイギリス人は、寡婦が夫の後を追って自殺する風習である（ハ）や幼児婚をインド社会の後進性の象徴とみた。

ところが逆に、既存の秩序や社会関係を再考したり変革したりする際に性差が鍵を握る場合もある。感情豊かな妻や母として家庭を守り、子どもたちを次代の担い手として育てよという18世紀以降の市民社会の要求は、その大任を担う女性たちに参政権を与えよという運動を各地で生んだ。洪秀全が率いた太平天国は、女性を含めた耕地の均分化である（ニ）や纏足^{てんそく}の廃止などを唱えて、清朝社会をその根底から揺るがした。ヨーロッパ人のまなざしを逆手に取るように、「新オスマン人」や「青年トルコ人」と呼ばれた人びとは、一夫多妻制や見合結婚を批判することでオスマン社会¹⁵⁾の改良を図った。20世紀初頭、真っ赤な口紅に膝下丈のスカートでさっそうと上海や東京を歩くモダンガールのイメージは、従来社会に挑戦する女性たちのあこがれであり、新しい消費者を獲得しようとする企業の画策でもあった。性差と社会のありようが組んずほぐれつしたのである。

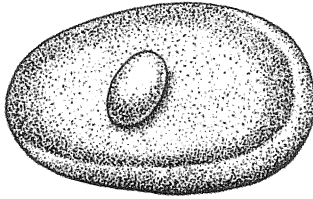
A. 文中の空所(イ)～(ニ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線部1)～16)にそれぞれ対応する次の問1～16に答えよ。

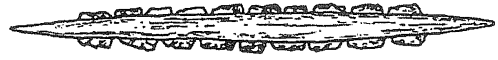
1. この時代に関する説明として正しくないものはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. ヴィレンドルフのヴィーナス像は、新人が残した原始美術の一例である
 - b. 猿人の登場は、180万年前にさかのぼる
 - c. 原人は火を使用した
 - d. 代表的な旧人にネアンデルタール人がいる

2. この時代になってから登場した道具と考えられるものを、次の写真 a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

a.



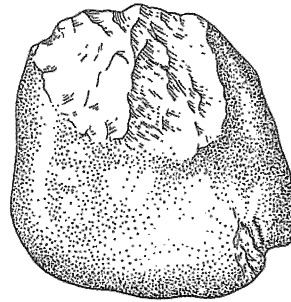
b.



c.



d.



3. これに関する次の文を読み、文中の空所〈あ〉・〈い〉それぞれにあてはまる語群を次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

農耕は西アジアでの麦栽培に始まったとするのが定説である。近年では複数地域に起源を求める説も有力で、東南アジアでは〈あ〉、アメリカ大陸中部では〈い〉などが栽培された。

a. エンドウ、てんさい

b. サトウキビ、タロイモ

c. トウモロコシ、サツマイモ

d. ヒョウタン、ゴマ

4. このころ、戦乱のあいだに没落した貴族に代わって新たな勢力が台頭した。科挙出身の官僚も多く輩出し、豊かな経済力を備えたこの新興地主層を何と呼ぶか。その名をしるせ。

5. この儒教哲学は四書を重視した。この四書に含まれないものはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

a. 『春秋』

b. 『大学』

c. 『孟子』

d. 『論語』

6. これに関する記述として正しくないものはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- a. ヴォルムス協約が1122年に交わされ、神聖ローマ皇帝の権威がローマ教皇のそれを凌駕した
- b. 各国の王権の伸張とともに教皇の権威は衰え、ウィクリフやフスらの教会批判が続いた
- c. 西ローマ帝国は476年に滅亡したが、ユスティニアヌス帝がローマ帝国復興を図った
- d. 農業生産力向上とともに人口が増加したことにより、ドイツ人が東方植民に乗り出した

7. この宗教に関する次の文を読み、文中の空所〈う〉～〈お〉それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

たびたび異民族の侵入を経験した中世ヨーロッパだが、そのキリスト教社会は外来非キリスト教徒の支配からはまぬがれた。その一因を、各地に張り巡らされた修道院のネットワークに求めることができよう。東ゴート人のイタリア支配が始まった529年ごろに修道者〈う〉は、「清貧・純潔・服従」を基本戒律とする修道院を創設した。910年にブルゴーニュに創設された〈え〉修道院は、12世紀初めには系列修道院だけで1,500を超えた。これら修道院は、書物を生産・流通・保管し、ヨーロッパ社会を知的に支えた。12世紀ごろから誕生する大学で教鞭をとったのも、『神学大全』を著した〈お〉をはじめとする多くの修道士たちであった。

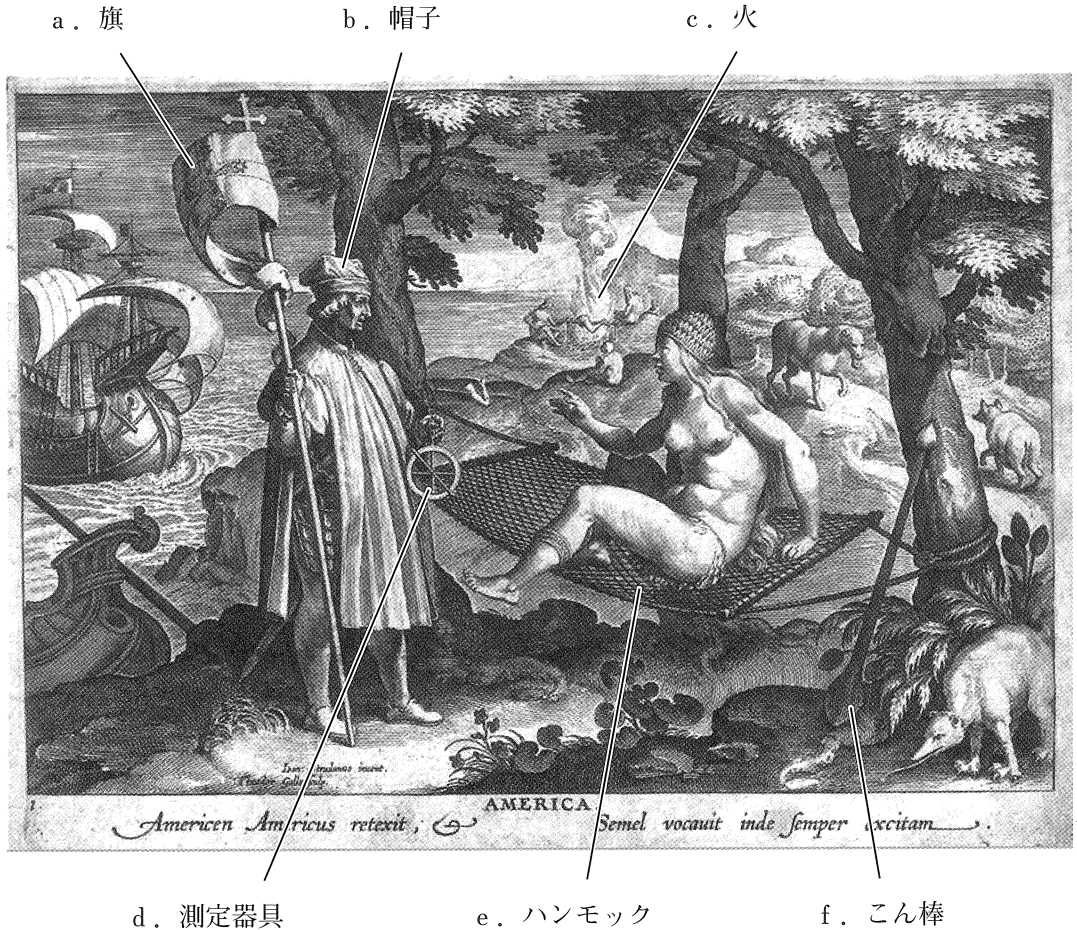
8. その反面で、14世紀からのルネサンス期には女性の美しさが描かれた。古典古代の神話をテーマに、官能的な女性美を描いたと評される「ヴィーナスの誕生」で知られ、1510年に没した画家の名をしるせ。

9. この時期の世界に関する次の問 i・ii に答えよ。

- i. サファヴィー朝の都で、「世界の半分」と称されるほど繁栄した都市の名をしるせ。
- ii. オイラトの一部族が北・中央アジアに遊牧帝国を築いて、最盛期を迎えようとする清朝と対決した。この部族の名をしるせ。

10. このころ、ヴォルテールは民衆への不信から啓蒙専制君主を通しての社会改革を構想したが、『人間不平等起源論』や『社会契約論』を著した思想家は平等と人民主権を説いた。この人物の名をしるせ。

11. 性差による社会的な束縛を問題にした知識人が皆無だったわけではない。「女性よ、目ざめよ」で始まる『女性の権利の宣言』を1791年に発表した人物は誰か。その名をしるせ。
12. 1600年ごろに描かれたこの図像について論じた以下の文中の空所〈か〉・〈き〉それぞれにあてはまるのはどれか。図中の a ~ f から1つ選び、その記号をマークせよ。



左側に立つ男性であるヴェスプッチが、右側に横たわるアメリカを象徴する女性の前に現れるこの構図は、ヨーロッパのアメリカに対する優位をあたかも自明であるかのように印象づける。ここにはさらに、この性差イメージと結びついて優劣の関係を表現する二項対立図式が描き込まれた。一方には科学を象徴する〈か〉やキリスト教の象徴たる〈き〉といった文明の表象が描かれ、他方には未開や自然が配されたのである。

【以下余白】